



第9回 街づくり・持続可能性委員会

2019年3月25日

- 資料1 ダイバーシティ & インクルージョンの推進とD&I宣言について
- 資料2 2018年の組織委員会活動報告について
- 資料3 東京2020参画プログラムの現状について
- 資料4 アクション&レガシー ファイナルレポートについて
- 資料5 レガシー・レポーティング・フレームワークについて
- 資料6 持続可能性進捗状況報告書の概要

ダイバーシティ & インクルージョンの推進と D&I宣言について

1. 目的:大会ビジョン「多様性と調和」を実現した東京2020大会の実施

大会ビジョンの実現には、ダイバーシティ & インクルージョンの推進が不可欠

- ✓ 東京2020メンバーがD&Iを理解し、多様な人材がいきいきと活躍できる職場環境づくり
- ✓ 東京2020大会の計画・運営にD&Iの視点を反映させ、誰もが心から楽しめるサービスを提供
- ✓ ステークホルダーや関係機関にもD&Iの考えを共有
- ✓ 大会終了後、東京2020大会で得たD&Iの意識を一人ひとりが新たなフィールドで実践

2. アクションワード

Know Differences,
Show Differences.

TOKYO 2020 のD&I取り組み(一部)



- **D&I接遇・サポート研修**

障がい当事者の職員が講師を務め、当事者が環境との間で感じるバリアや、接遇・サポートにおける基本姿勢や方法を体験を通して学ぶ。「視覚編」、「聴覚編」、「車いす編」の3パート。

- **Handbook**

今年4月から組織委員会内で共有されている。
東京2020大会を通して、一人ひとりがちがいを知り、ちがいを示すために、D&Iについて必要な理解をし、その考え方を広く発揮するためにまとめたもの。

- **PRIDEの指標取得**

東京2020大会として、組織内のD&I体制整備の一環として「PRIDE指標」に応募し、シルバー、取り組みとして「調達コード」がベストプラクティスを受賞。



- 目的
 - ① 人権・ダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）推進の意識向上
 - ② D&Iにおけるリーダーシップの重要性の再認識
- 対象 全職員

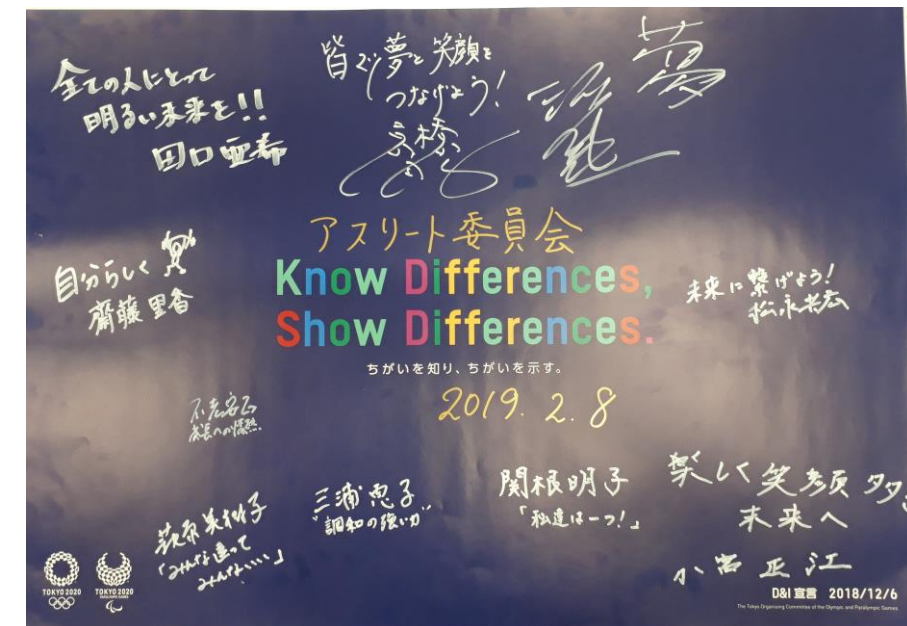


D&I宣言イベント(2018年12月6日)

D&I宣言（12月6日実施）



アスリート委員会 D&I宣言(2019年2月8日)



D&Iポスター



D&Iステッカー

Tokyo 2020 D&I宣言

東京2020大会では、大会ビジョンとして、「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、「そして、未来に繋げよう（未来への継承）」を3つの基本コンセプトとして、史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とすることを掲げています。

大会まであと2年をきったこの時期に、私たちがダイバーシティ & インクルージョン（D&I）を尊重・推進していくことを組織内外に強く発信するため、ここに、Tokyo 2020 D&I推進を宣言します。

1. 大会ビジョンの実現、ひいては東京2020大会の成功に向けてD&Iを不可欠な要素と意識し、組織委員会全体がOne Teamとなって、東京2020大会に関わるすべての人が心から楽しめるようなサービスを提供するため、大会計画・運営を進めていきます。
2. 多様な才能とアイデアが集まることで、思いもよらないイノベーションが生まれます。私たち一人ひとりが互いの違いを理解し、尊重し合い、持てる力を最大限に発揮し、いきいきと働ける環境を整備します。
3. 組織委員会のみならず、全てのステークホルダー、開催都市、開催国等大会デリバリーパートナーにもD&Iの考え方を共有し、大会後には、日本社会にD&Iの考え方をレガシーとして根付かせるため、東京2020大会で得たD&Iの意識を新たなフィールドで実践しつづけます。

年 月 日 署名

2018年の組織委員会活動報告について

東京2020大会の概要

競技日程

オリンピック(17日間)

7月24日
~8月9日

パラリンピック(13日間)

8月25日
~9月6日

選手数

オリンピック

11,090人

パラリンピック

4,400人

競技数・種目数

オリンピック

33競技 339種目

パラリンピック

22競技 540種目

会場

全数

43会場

うち
都外

18会場



職員数

現在(2018年12月時点)

2.0千人

大会時(予定)

8.0千人

ボランティア

11万人以上

〈内訳〉

大会ボランティア8万人

都市ボランティア3万人以上

2018年の主な活動報告事項

1. 競技会場及び競技スケジュールについて
2. 開会式・閉会式について
3. 聖火リレー・聖火台について
4. 東京2020大会マスコット決定
5. ボランティアについて
6. 大会チケットについて
7. 機運醸成に向けた主な取組み
8. 復興に関する主な取組み
9. 大会予算V3

1-1) 競技会場

- ・競技は東京1964大会のレガシーを引き継ぐ**ヘリテッジゾーン**、都市の未来を象徴する**ベイゾーン**のほか、地方会場で実施。
- ・2018年5月までに新たに競技会場が決定され、最終的にオリンピックは42会場（33競技）、パラリンピックは21会場（22競技）で確定。
- ・青海、お台場、有明地区において、祝祭空間を創出するアーバンクラスター構想が進展。
- ・晴海に選手団が宿泊する選手村を建設。宿泊施設以外にもオフィシャルストア・ヘアサロン・雑貨店、総合診療所、スポーツジム、ダイニングホール等を整備。

<競技会場例>

福島あづま球場（野球・ソフトボール）



有明BMXコース完成予想図（自転車競技・スケートボード）



会場詳細は、東京2020組織委HPを参照
<https://tokyo2020.org/jp/games/venue/>



1-2) 競技スケジュール(オリンピック)

競技スケジュールの策定

- ・ オリンピック各競技のセッションスケジュールを公表(2018年7月、9月、12月)。
- ・ スケジュールの詳細(種目ごとの日程など)を現在策定中。

主な競技スケジュール



○競泳
7月25日(土)～8月2日(日)



○体操競技
7月25日(土)～7月30日(木)
8月2日(日)～8月4日(火)



○ラグビー
7月27日(月)～8月1日(土)

- ・ 19日間に及ぶ、史上最多33競技339種目を42の競技会場で実施。
- ・ 日本各地で競技が行われ、より多くの方々に大会の熱気を感じて頂く。

1-3) 競技スケジュール（パラリンピック）

競技スケジュールの策定

史上最多4,400名※の世界のパラリンピアンによる、12日間の戦いのセッションスケジュールが決定(2018年10月)。

主な競技スケジュール



○車いすテニス
8月28日(金)～9月5日(土)



○ウィルチェアーラグビー
8月26日(水)～8月30日(日)



○ゴールボール
8月26日(水)～9月4日(金)

- ・ 8月25日の開会式翌日から9月6日の閉幕まで、12日間にわたり22競技540種目が21会場で実施。
- ・ 大会全体を通じて盛り上がりが続くよう、人気競技がバランスよく配置。

※選手数の上限

2) 開会式・閉会式について

4式典を一体と捉え、統一あるものとするために全体のプラン・ストーリーを作成する。

<4式典のあり方>

【オリンピック開会式】

- ・国内外からの注目度が非常に高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の萌芽である。
- ・東京2020大会の担う歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトに鑑みて4式典を貫くポジティブなメッセージを世界に発信する。

【パラリンピック開会式】

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市であり、中でも開会式は世界中の注目を集める機会である。
- ・違いを認め合い、支え合い、活かしあうことで、多様で平等な共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

【オリンピック閉会式】

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。また、アスリートに限らず、人々の心に感動を残した方々も讃えたい。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、国を超えた一体感を生み出す。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。

【パラリンピック閉会式】

- ・パラリンピックのフィナーレであるとともに、東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレでもある。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

<演出企画の実施体制>

氏名	肩書等	制作体制
野村萬斎	狂言師	チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（東京2020大会総合）
山崎貴	映画監督	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（オリンピック担当）
佐々木宏	クリエイティブ・ディレクター	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（パラリンピック担当）

氏名	肩書等	制作体制
川村元気	映画プロデューサー／小説家	クリエイティブ・ディレクター（東京2020総合チームメンバー）
来栖良依	クリエイティブプロデューサー クリエイティブディレクター	
椎名林檎	演出家・音楽家	
菅野薫	クリエイティブディレクター クリエイティブテクノロジスト	
MIKIKO	演出振付家	

14 3-1) 聖火リレーについて

・東京2020オリンピック聖火リレー

コンセプト 「希望の道を、つなごう。 Hope Lights Our Way」

ギリシャ聖火式から日本に聖火が到着するまで

(参考) 東京2020オリンピック聖火リレー 各都道府県 実施日一覧

3/12(木)
ギリシャ古代オリンピア市 聖火採火式
3/12(木)～3/19(木)
ギリシャ国内聖火リレー
3/19(木)
ギリシャアテネ市にて聖火引継式
3/20(金)
宮城県の航空自衛隊松島基地に到着
3/20(金)～25(水)
宮城県・岩手県・福島県で「復興の火」として
展示



福島県から日本全国を回る
東京2020オリンピック聖火リレーがスタート！

都道府県名	日 程	都道府県名	日 程	都道府県名	日 程
① 福島県	3/26(木)～3/28(土)	①⑦ 鹿児島県	4/28(火)～4/29(水)	③③ 富山県	6/3(水)～6/4(木)
② 栃木県	3/29(日)～3/30(月)	①⑧ 沖縄県	5/2(土)～5/3(日)	③④ 新潟県	6/5(金)～6/6(土)
③ 群馬県	3/31(火)～4/1(水)	①⑨ 熊本県	5/6(水)～5/7(木)	③⑤ 山形県	6/7(日)～6/8(月)
④ 長野県	4/2(木)～4/3(金)	②⑩ 長崎県	5/8(金)～5/9(土)	③⑥ 秋田県	6/9(火)～6/10(水)
⑤ 岐阜県	4/4(土)～4/5(日)	②⑪ 佐賀県	5/10(日)～5/11(月)	③⑦ 青森県	6/11(木)～6/12(金)
⑥ 愛知県	4/6(月)～4/7(火)	②⑫ 福岡県	5/12(火)～5/13(水)	③⑧ 北海道	6/14(日)～6/15(月)
⑦ 三重県	4/8(水)～4/9(木)	②⑬ 山口県	5/14(木)～5/15(金)	③⑨ 岩手県	6/17(水)～6/19(金)
⑧ 和歌山県	4/10(金)～4/11(土)	②⑭ 島根県	5/16(土)～5/17(日)	④⑩ 宮城県	6/20(土)～6/22(月)
⑨ 奈良県	4/12(日)～4/13(月)	②⑮ 広島県	5/18(月)～5/19(火)	④⑪ 静岡県	6/24(水)～6/26(金)
⑩ 大阪府	4/14(火)～4/15(水)	②⑯ 岡山県	5/20(水)～5/21(木)	④⑫ 山梨県	6/27(土)～6/28(日)
⑪ 徳島県	4/16(木)～4/17(金)	②⑰ 鳥取県	5/22(金)～5/23(土)	④⑬ 神奈川県	6/29(月)～7/1(水)
⑫ 香川県	4/18(土)～4/19(日)	②⑱ 兵庫県	5/24(日)～5/25(月)	④⑭ 千葉県	7/2(木)～7/4(土)
⑬ 高知県	4/20(月)～4/21(火)	②⑲ 京都府	5/26(火)～5/27(水)	④⑮ 茨城県	7/5(日)～7/6(月)
⑭ 愛媛県	4/22(水)～4/23(木)	③① 滋賀県	5/28(木)～5/29(金)	④⑯ 埼玉県	7/7(火)～7/9(木)
⑮ 大分県	4/24(金)～4/25(土)	③② 福井県	5/30(土)～5/31(日)	④⑰ 東京都	7/10(金)～7/24(金)
⑯ 宮崎県	4/26(日)～4/27(月)	③③ 石川県	6/1(月)～6/2(火)		

- ・都道府県の実施日数について、開催都市東京都については15日を設定。
- ・東日本大震災被災3県(岩手、宮城、福島)、複数種目を実施する4県(埼玉、千葉、神奈川、静岡)については、各県3日を設定。
- ・上記都県以外は各道府県2日と設定。(移動日を含め合計121日)

・東京2020パラリンピック聖火リレー

コンセプト 「あなたは、きっと、誰かの光だ。 Share Your Light」

- ・開催都市東京都、パラリンピック競技開催県(埼玉県、千葉県、静岡県)においてトーチで火をつなぐリレーを実施。
- ・4都県を除く43道府県については、採火などを通じてなるべく多くの道府県に参画いただけるように今後調整。

15 3-2) 聖火台について

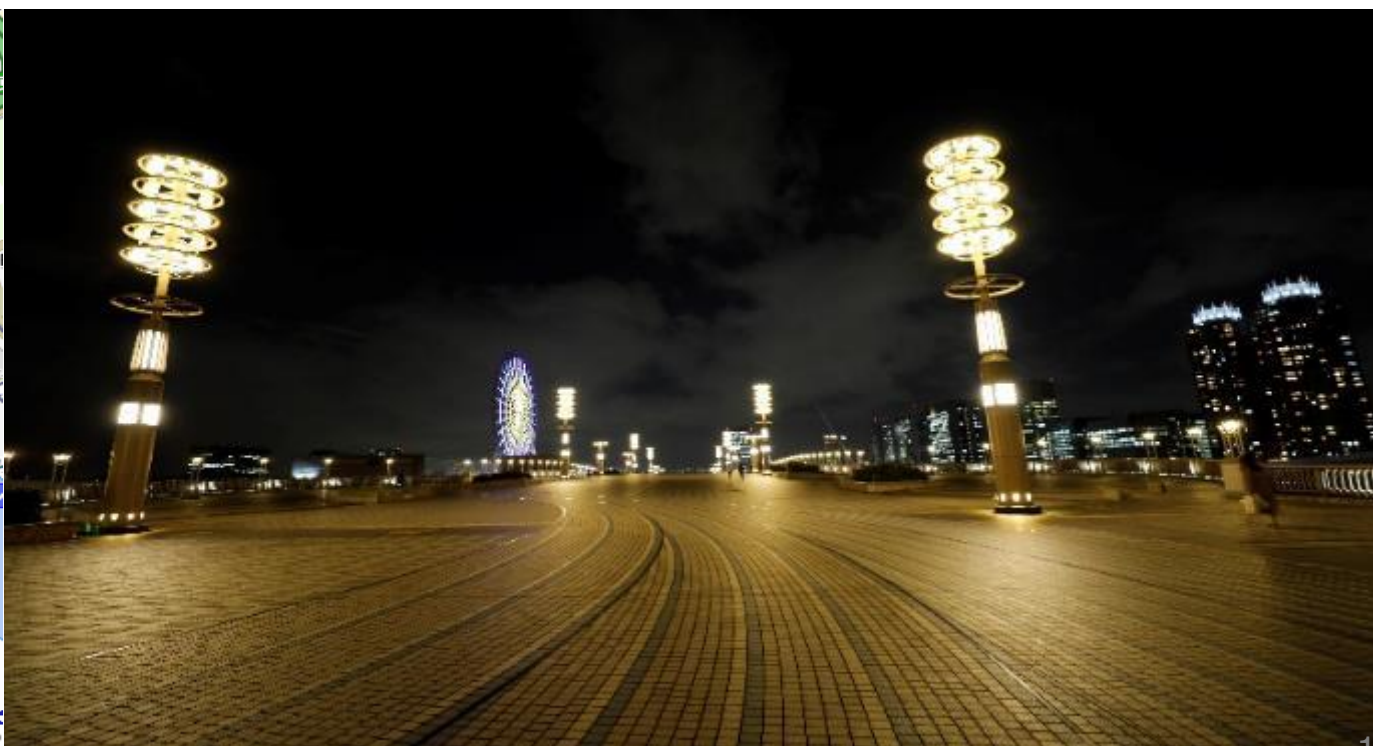
【製作台数】

式典用と競技期間用の2台の聖火台を製作する。

【競技期間中の設置場所について】

東京臨海部夢の大橋有明側を聖火台設置場所候補地としてIOCへ提案。

＜設置場所＞ 東京臨海部 夢の大橋 有明側 (江東区有明 3 丁目付近)



4-1) 東京2020大会マスコット決定

史上初、大会マスコットを小学生の投票で決定

(小学部を置く特別支援学校や海外の日本人学校、国内の外国人学校、不登校児童が通う施設等を含む)

マスコット決定までの流れ

2017年8/1～14 大会マスコット募集 2,042件応募

12/7 大会マスコット候補 3案発表

12/11～2018年
2/22 全国の小学校での、学級単位での投票

【投票総数】 16,769学校、205,755学級

(全国の小学校の約8割)



4-2) 東京2020大会マスコット決定

- ・2018年7月22日、マスコットの名前が決定し、正式にデビュー。
- ・その後、2年前イベント(7月24日オリンピック、8月25日パラリンピック)や、アスリートと共に実施する競技体験イベントといった様々な場面でマスコットが登場。



伝統と近未来がひとつになった
温故知新なキャラクター。

伝統を大切にしながら、つねに最新情報もキャッチしています。

正義感が強く運動神経バツグンで、どんな場所にも瞬間移動できます。

伝統の市松模様と近未来的な世界観から生まれました。



ミライトワ
MIRAITOWA

○名前の由来

ミライトワという名前は、「未来」と「永遠（とわ）」というふたつの言葉を結びつけて生まれました。

東京2020大会を通じて、世界の人々の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせます。



ソメイティ
SOMEITY

○名前の由来

ソメイティという名前は、桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「so mighty」から生まれました。東京2020大会を通じて、桜を愛でる日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしさを印象づけます。

桜の触角と超能力を持つクールなキャラクター。

いつもは物静かなのに、いざとなるとパワフル。

強い信念と自然を愛する優しさがあり、石や風と話したり、見るだけで物を動かします。

市松模様と桜を力強く表現して生まれました。

5-1) ボランティアについて

・大会ボランティアは、競技会場や選手村、その他大会関連施設で、観客サービスや競技運営のサポート、メディアのサポート等、大会運営に直接携わる活動を実施。

・応募完了者数204,680人
(大会ボランティアマイページ登録者数262,437人)

- ・男女比:男性36%、女性64%
- ・国籍:日本国籍64%、日本国籍以外36%
- ・11日以上の活動を希望する方が6割を超える
- ・各世代バランスよく応募

項 目	大会ボランティア募集要項（抜粋）
募集人数	80,000人
応募に当たって	2002年4月1日以前に生まれた方 日本国籍又は日本に滞在する在留資格を有する方
応募期間	2018年9月26日～12月21日（視覚に制約のある方等は除く）
活動分野と人数	活動分野、主な活動内容、人数の目安
役割等の決定方法	希望する役割等と実際の役割等のマッチングにより決定。 マッチング不成立の際は、2019年9月頃に通知
活動期間・時間	10日以上を基本、休憩・待機時間を含む1日8時間程度
活動時にお渡しする物品等	ユニフォーム、活動中の飲食、ボランティア活動向けの保険、活動期間中における滞在先から会場までの交通費相当として1,000円/日

※都市ボランティアについては、都及び関係自治体で募集

5-2) ボランティアについて

・ボランティアのネーミング

- ・大会の顔となるボランティアについては、愛称（ネーミング）をつけるのが慣例。
※ロンドン 大会）ゲームズメーカー、都市）ロンドンアンバサダー
- ・東京大会では、参画を促す観点からボランティア応募者による投票を実施。
- ・投票期間：12月12日（水）～1月20日（日）
- ・最終案発表：1月28日（月） フィールド キャスト／シティ キャストに決定
- ・ネーミングは、大会ボランティアを含む大会スタッフ及び都市ボランティアのネーミング。

大会スタッフ・ボランティア ネーミング

Field Cast

フィールド キャスト

都市ボランティア ネーミング

City Cast

シティ キャスト

■競技場などで選手と関わりながら活躍する人、そして、競技場と競技場を結ぶ街でみなさんと関わりながら活躍する人がいます。ボランティアひとりひとりに、大会を盛り上げる重要な役割を担ってほしい。そんな願いをキャスト（配役）という言葉に込めました。

・ボランティアのユニフォーム

「大会スタッフ・都市ボランティアのユニフォームデザイン選考委員会」を設置し、デザイン選考中

※（最終選考）2019年3月28日

6) 大会チケットについて

史上最大級のチケットティング・イベント

(プロ野球 1 球団の4～5年分のチケットを約1ヶ月間で取扱うプロジェクト)

- ・ 2018年7月から東京2020大会公式チケット販売サイトでチケットを購入するための、TOKYO 2020 IDの登録開始
- ・ チケット発売は2019年春以降

	開会式	閉会式	競技一般チケット
オリンピック	12,000円～300,000円	12,000円～220,000円	2,500円～130,000円
パラリンピック	8,000円～150,000円	8,000円～90,000円	900円～7,000円

過去大会のチケット規模(概算数)

ロンドン大会 1037億円／1080万枚
リオ大会 509億円／ 821万枚

東京大会のチケット規模(招致ベース)

オリンピック 772億円／ 780万枚
パラリンピック 48億円／ 230万枚
合 計 820億円／1010万枚



※チケット枚数・価格等については変更の可能性あり。

『チケット完売・売上の最大化』と『フルスタジアムの実現』の両立がポイント

7-1) 機運醸成に向けた主な取組み

一人でも多くの方が参画し、大会をきっかけにした成果を未来につなげるため、オリンピック・パラリンピックの機運を醸成。

主なイベント	取組内容
東京2020参画プログラム	様々な組織・団体が東京2020大会の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、2020年に向けてオールジャパンで取り組む参加型のプログラムを実施（2016年10月～）。
東京Nipponフェスティバル	世界から注目が集まる時期に東京2020大会公式文化プログラムとして、我が国の誇る文化を国内外に強く発信（2020年4月頃～）。
開幕まであと2年！ 2 Years to Go！	カウントダウンセレモニーを行い、開催まで2年の節目を祝い一体感を強化（2018年7月・8月）。
東京五輪音頭-2020-	1963年に三波春夫さんをはじめ多くの方々に歌い継がれてきた東京五輪音頭を現代版にリメイク。夏祭りの会場から盛り上げ（2017年7月～）。
フラッグツアー	東京の市区町村を巡ったフラッグと共に、日本全国にオリンピック・パラリンピックの価値を伝達（2016年10月～）。



7-2) 機運醸成に向けた主な取組み

コアグラフィックスの決定

コアグラフィックスは、会場装飾、都市装飾以外にも、競技備品やチケット等広く展開され、大会を印象付けるデザインとなります。今後、コアグラフィックスを展開させたデザインの装飾等は、2019年春頃実装を行う予定です。

Tokyo2020コアグラフィックス



Tokyo2020横型装飾バナー 展開例



Tokyo2020縦型装飾バナー 展開例



コアグラフィックスのデザインモチーフとして"かさねの色目"を用います。

「かさねの色目」とは、十二単（じゅうにひとえ）に代表される色の組み合わせのひとつで、日本の四季折々の自然の色合いを重ね合わせた、日本の美や美意識を象徴する文化のひとつと言えます。

7-3) 機運醸成に向けた主な取組み

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

使用済み携帯電話等の小型家電から抽出したリサイクル金属で東京2020大会のメダルを製作するプロジェクトを実施。このプロジェクトを通じて、金・銀・銅あわせて約5,000個のメダルを製作予定。

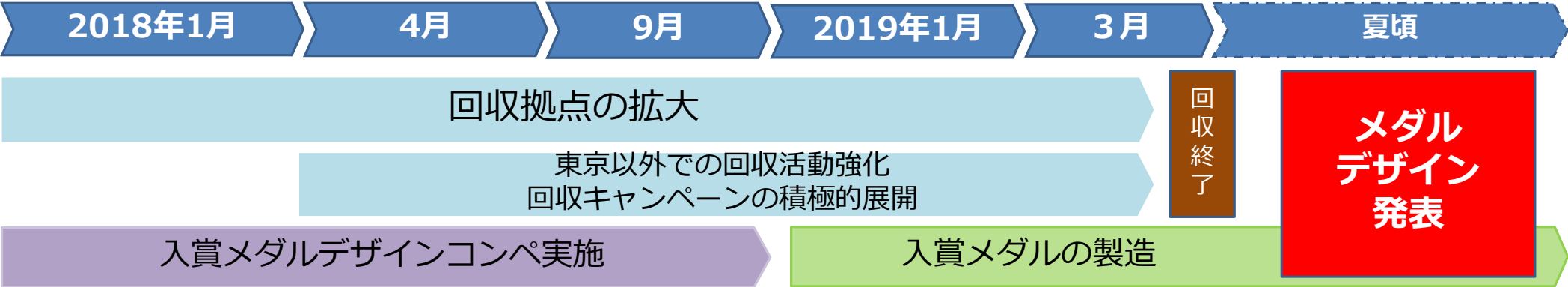
【メダル製造に必要な金属の確保状況】



※最終的な納入量に対する納入済み金属量および2018年10月末までの小型家電等の回収量に基づく納入見込み量の合計の割合
※銅については2018年6月までの回収量で100%を達成

- 全体の約9割にあたる1,618の自治体、パートナー企業等が回収に参加（2019年2月時点）
- メダル製作に必要な金属量を確保できる見通しが立ったため、2019年3月31日を持って回収を終了
- 2019年夏頃に予定しているデザイン発表に向けて、メダルデザインコンペティション(421名エントリー)をはじめ、平面デザイン審査や、立体デザイン審査を複数回実施。

【スケジュール(イメージ)】

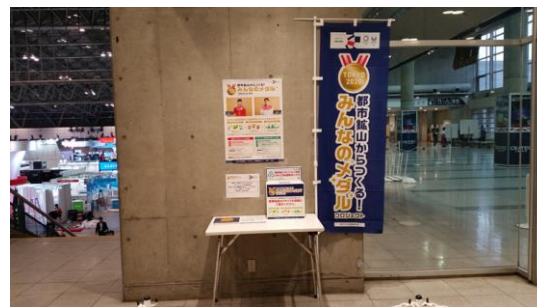


7-3) 機運醸成に向けた主な取組み

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

《2018年度の取組み》回収促進のため、各種イベントにてPR活動を実施

イベント名	実施日	会場	備考
開催まであと2年! 東京2020オリンピックカウントダウンイベント	7月24日	東京スカイツリータウン	
開催まであと2年! 東京2020パラリンピックカウントダウンイベント	8月25日	MEGA WEB	
東京2020マスコットハウス	7月22日 -9月6日	日比谷ミッドタウン	
COUNTDOWN SHOWCASE	9月27日 -9月28日	三井住友銀行東館 ライジング・スクエア	主催:経済産業省、オリンピック・ パラリンピック等経済界協議会
CEATEC JAPAN 2018	10月16日 -10月19日	幕張メッセ	主催:CEATEC JAPAN実施協議会ほか
持続可能性公開授業	12月3日 12月13日	福岡県大牟田市立天領小学校 愛媛県新居浜市立角野小学校	主催:環境省



7-3) 機運醸成に向けた主な取組み

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

回収終了後も、小型家電リサイクルを社会に根付かせ、大会のレガシーとするための取組みを検討

- 本プロジェクトの成果を各所にてアピール
- 参加自治体や事業者による小型家電等の回収の継続
プロジェクトとしての回収終了後も、広報物や小型家電回収ボックスに使用できる“レガシーロゴ”を開発



レガシーロゴA
(広報物への使用を推奨)



レガシーロゴB
(回収ボックスへの使用を推奨)

7-4) 機運醸成に向けた主な取組み

国連とのSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名

オリンピック・パラリンピックの精神と親和性の高いSDGs（持続可能な開発目標）を大会を通して啓発し、スポーツの力により持続可能な社会の実現というレガシーを創出することを目的に国連と基本合意書を締結。国際連合とSDGsについて基本合意書を締結するのは、歴代のオリンピック、パラリンピック組織委員会として初。

日 時:11月14日

会 場:虎ノ門ヒルズ9階 Tokyo

署名者:国際連合事務次長 アリソン・スメイル氏

組織委員会事務総長 武藤敏郎



7-4) 機運醸成に向けた主な取組み

国連とのSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名

《締結内容》

- 双方の主催イベントによるSDGs啓発活動
- 情報、資料、資材の提供
- S D G zone／S D G live at Tokyo 2020（仮称）の設置

《具体的な取組み》

- 2020→30×SDGs会議
日時:2019年2月10日
会場:一橋講堂
主催:2020→30×SDGs会議実行委員会
(Tokyo2020、朝日新聞社、大日本印刷、東京海上日動)
- 開発と平和のためのスポーツの国際デー
～スポーツで気候変動に取り組もう～
日時:2019年4月5日(予定)
会場:国連大学ビル/地球環境パートナーシッププラザ/
インターネット中継配信
- International Day of Sport for Development and Peace
日時:2019年4月3日(予定)
会場:ニューヨーク国連本部（ビデオメッセージにて出演予定）



7-5) 機運醸成に向けた主な取り組み

東京2020オリンピック公式映画の監督に河瀬直美さんが就任

河瀬 直美 1969年 奈良県生まれ

(主な作品)

「萌の朱雀」 カンヌ映画祭カメラドール(新人監督賞)

「火垂」 ロカルノ国際映画祭国際批評家連盟賞
ヨーロッパ国際芸術映画連盟賞

「殯の森」 カンヌ映画祭グランプリ (審査員特別大賞)

「あん」 バリャドリッド国際映画祭最優秀監督賞
バレッタ映画祭最優秀作品賞

「光」 カンヌ国際映画祭エキュメニカル賞



8) 復興に関する主な取り組み

オリンピック聖火リレー

- ・オリンピック聖火リレーの出発地を福島県とするとともに、東日本大震災の被災3県（岩手、宮城、福島）については、各県3日に設定。
- ・聖火リレー開催に先立ち、ギリシャで採火した聖火を「復興の火」として被災3県で順次展示。

福島あづま球場・宮城スタジアム

- ・福島あづま球場で野球・ソフトボールを実施。
- ・宮城スタジアムでサッカーを実施。

東京2020理事会

- ・福島県（ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ）で理事会を開催。同日、理事会に先立ち、3県関係者を交えた意見交換会を実施（2018年7月）。

スポーツの力で被災地を応援 ～若手アスリート参画プロジェクト～

被災地で行われたイベントにアスリートを派遣し、スポーツ等を通して、被災地の子どもたちとの交流を行った。



復興のモニュメント

- ・「感謝・応援～支援への感謝や選手への応援を伝えたい～」。
 - ・「感謝・感動～応援への感謝やスポーツの持つ力を被災地に届ける～」。
- をコンセプトにモニュメントを製作予定。

ワールドプレスブリーフィングレセプション

国内外のプレスなどに対し、被災3県の食材を活用した夕食会を実施（2018年9月）。

大会を通じた取組例（東京都と共催）

フラッグハンドオーバーセレモニー

- ・世界中の人々からの支援への感謝を発信



ジャパンハウスでの発信

- ・元気を取り戻しつつある東北の姿を紹介



リオから世界へ

ライブサイト

- ・岩手県盛岡市
- ・宮城県仙台市
- ・福島県福島市



リオから被災地へ

平昌から被災地へ

ライブサイト

- ・岩手県盛岡市
- ・宮城県仙台市
- ・福島県郡山市
- ・熊本県熊本市



9) 大会経費V3

- ・大会経費V3を発表。(2018.12.21)(V2と同額)
- ・東京都と国が負担するその他の経費も、V2に引き続き7,500億円となっており、組織委員会とその他の経費を合わせた大会経費V3の総額は1兆3,500億円で、V2と同額。

【参考】経費分担試算(V3予算)

項目	組織委員会	東京都	国	合計
恒久施設	—	2,250億円	1,200億円	3,450億円
仮設等	950億円	2,100億円	200億円	4,650億円
エネルギーインフラ	150億円	250億円		
テクノロジー	700億円	300億円		
会場関係小計	1,800億円	4,900億円	1,400億円	8,100億円
	(400億円)	(200億円)	(200億円)	(800億円)
輸送	350億円	250億円	100億円	5,400億円
セキュリティ	200億円	750億円		
オペレーション	1,050億円	100億円		
管理・広報	650億円	0億円		
マーケティング	1,250億円	0億円		
その他	700億円	0億円		
大会関係小計	4,200億円	1,100億円	100億円	5,400億円
	(200億円)	(100億円)	(100億円)	(400億円)
計	6,000億円	6,000億円	1,500億円	13,500億円
	(600億円)	(300億円)	(300億円)	(1,200億円)

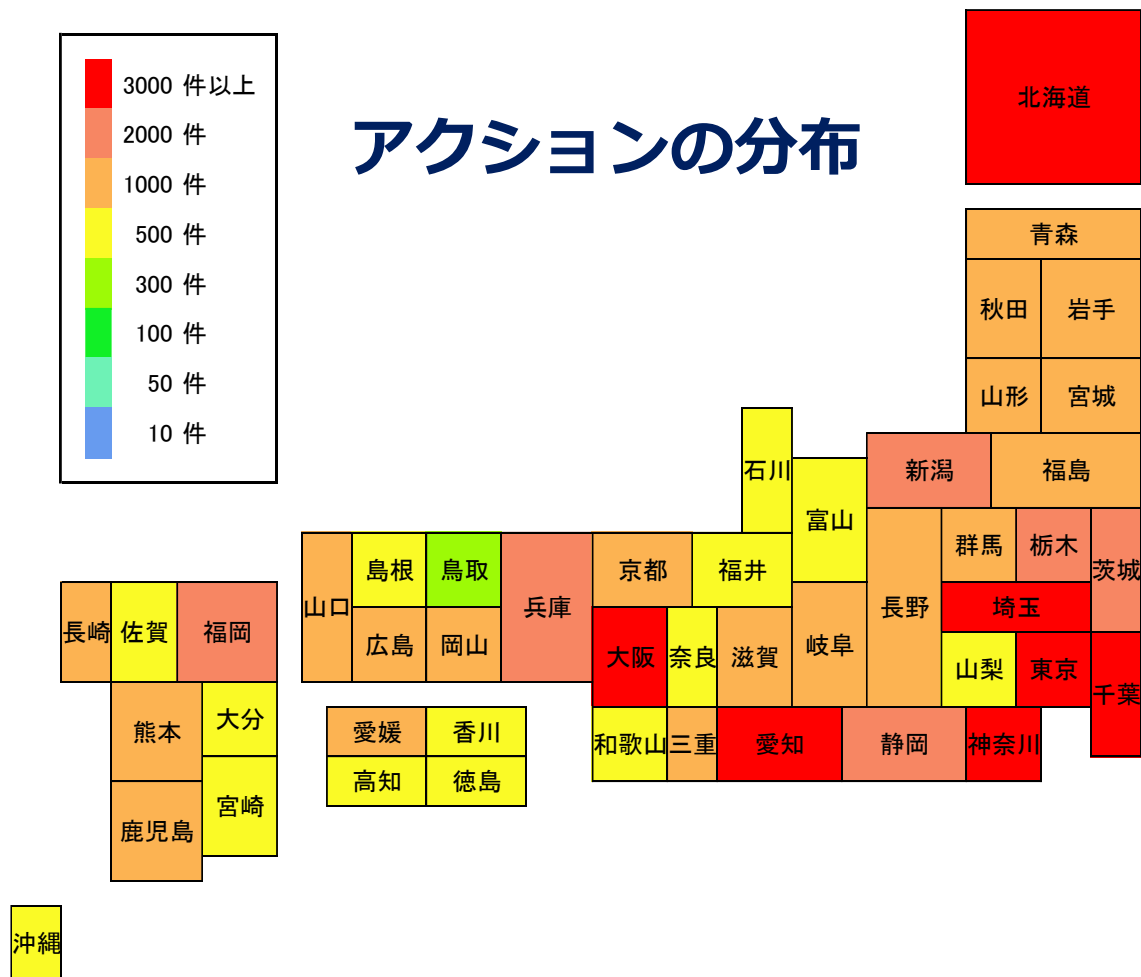
(注1) このほかに予備費1,000億円～3,000億円があります。これにより、予期せずに発生し得る、緊急に対応すべき事態等に対処します。

(注2) () は、うちパラリンピック経費分です。

東京2020参画プログラムの現状について

参画プログラム ①オールジャパンでの参画状況

- 2019年3月時点で、**約94,600件** のアクションを認証
- 全国へと拡がる認証アクションへの参加人数は、**約6,700万人!!**



街づくり
持続可能性

【内閣官房ホストタウンアクション】

○実施日:2018年2月～

○主 催:ホストタウン登録自治体

○内 容:

住民等との交流又は当該交流に伴い行われる取組。大会等に
参加するために来日する選手等、大会参加国・地域の関係者、
日本人オリンピック又はパラリンピアンと相手国との人的・
経済的・文化的な相互交流を図り地域の活性化等を推進し、
スポーツの振興、教育文化の向上及び共生社会の実現を図る。

○参加者:110,149人（2019年3月14日現在）

【ホストタウンアクションとは】

2020年の大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の
推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加
国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る自治体
を内閣官房が「ホストタウン」として登録し、登録された自
治体を実施する事業。

アクション名	主催	事業概要
佐賀市参画事業 都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト	佐賀市	佐賀市立小中学校にメダル回収ボックス を設置し、児童・生徒・家庭を含めてメ ダル向け小型家電（携帯電話・スマート フォン）を回収する。
第2回ブラジルホストタウン推進 浜松市民会議	浜松市	ブラジルのホストタウンである浜松市が、 ブラジル選手団の事前合宿受け入れを成 功させるため、市民一丸となって取り組 むための市民会議を開催する。
公民連携でインナーハーバー地区 の再生を考える共創ラボ	横浜市	インナーハーバー地区（横浜駅周辺、新 高島地区、ポートサイド地区）を共生社 会の視点からどのように再生するかを テーマとした共創ラボを開催します。今 回は英国よりイアン・マッキノン氏 （GDI-Hub オペレーション・ディレク ター）をお招きし、ロンドン大会のレガ シーの事例等をお話いただきます。
ホストタウンサミットin九州	福岡県	ホストタウンに係るビジョンをや課題共 有するサミットを開催し、自治体を越え た連携体制の構築を図る。



伊豆市ユニバーサルツーリズム研修会

○実施日:2018年6月21日

○主 催:伊豆市

○場 所:伊豆市修善寺総合会館 修善寺周辺の観光地

○内 容:

大会を契機とした共生社会の実現を目指すため、「ユニバーサルツーリズム」を学ぶ研修会を開催。
講義のほか、車いす使用者と視覚障害者の介助体験を実施。



持続
可能性

東京2020スポGOMI大会

- 実施日:2017年6月5日／2018年6月5日
- 主 催:東京2020組織委員会
- 後 援:東京都
- 協 力:一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ
(日本スポGOMI連盟)
- 場 所:国立競技場・神宮エリア／
有明エリア (シンボルプロムナード公園とその周辺)
- 内 容:
制限時間内に定められたエリア内のゴミを拾い、グループごとにその種類・
量を競う大会。
国際環境デーに東京2020組織委員会が主体となり本イベントを実施するに
当たり「スポーツを通して、環境に対する意識づけを行う」「環境に対する
意識づけを通じたスポーツの価値の発信」などこの取組みをメディアを通じ
て発信し、国内外に広くリーチすることでTOKYO2020ポジティブな価値・
理念をアピールした。



参画プログラム ②アクション事例

持続
可能性

日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

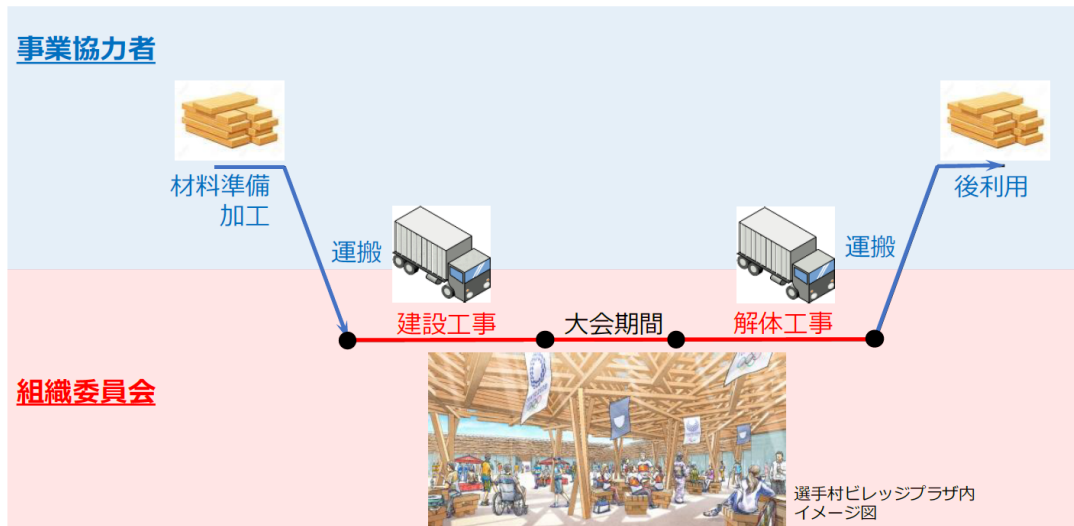
○実施日:2017年7月～

○主 催:参加自治体

○内 容:環境に配慮した持続可能な大会のシンボルとして、全国の各地の63自治体から借り受けた木材で、選手村のビレッジプラザを建築する。地域の木材を建物の様々な箇所に使用することで、多様性と調和を表現するとともに、環境負荷を低減し、持続可能性の実現を目指す取り組み。

大会後には、解体された木材を各自治体へ返却し、大会の記憶・レガシーとして活用。

本取組みに係る伐採・植林のイベントを認証。



持続
可能性

2020→30SDGs会議 ～大学生と考える次世代のレガシー～

○実施日:2019年2月10日

○主 催:2020→30×SDGs会議実行委員会(Tokyo2020、朝日新聞社、大日本印刷、東京海上日動)

○場 所:一橋講堂

○内 容:

SDGsの視点から、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催後、有形・無形のレガシーがどのように共有され、持続可能な社会づくりに貢献できるのかを考えるワークショップを開催。参加対象は大学生。

《全大会》

- ・SDGsセッション ～Tokyo 2020とSDGs～

東京2020組織委員会企画財務局長 伊藤学司

国連広報センター所長 根本かおる氏

朝日新聞スポーツ部記者 前田 大輔氏（進行）

- ・Tokyo 2020で次世代の子どもたちをつなげる

東京2020組織委員会スポーツディレクター 室伏広治

《分科会》

分科会A「ユニバーサルデザイン」

ファシリテーター 田瀬和夫氏

分科会B「気候変動」

ファシリテーター 水野雅弘氏

分科会C「ダイバーシティと街づくり」

ファシリテーター 杉浦正吾氏



アクション&レガシー ファイナルレポートについて

アクション&レガシー ファイナルレポート

概要

組織委員会は、2016年7月に「アクション&レガシープラン2016」を策定、以後毎年更新。
2020年向けに、このプランで定めたレガシーコンセプトに基づいた各種アクションを実施。
アクションの成果やレガシーについて、大会後に「ファイナルレポート」として取りまとめる。

スケジュール

2018年度	2019年度				2020年度		
第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	大会後
専門委員会		アクション&レガシー プラン2019		専門委員会		東京2020大会	専門委員会（仮） アクション&レガシー ファイナルレポート

アクション&レガシー ファイナルレポート

全体構成

- ✓ はじめに
会長・総長の挨拶等
- ✓ エグゼクティブサマリー
第二章～第六章のサマリー（主な実績を網羅）
- ✓ 第一章 アクション&レガシーレポートについて
目的等
- ✓ 第二章 スポーツ・健康
- ✓ 第三章 街づくり・持続可能性
- ✓ 第四章 文化・教育
- ✓ 第五章 経済・テクノロジー
- ✓ 第六章 復興・オールジャパン・世界への発信
- ✓ 第七章 東京2020参画プログラム
- ✓ 第八章 東京2020 NIPPONフェスティバルの概要

※参画プログラム一覧は、ホームページへの掲載をもって
かえる

第二章～第六章について

構成案は以下のとおり

- 基本的な考え方（導入）
- レガシーコンセプト
- アクション（主な実績、目玉プロジェクト含む）
- 成果
- 結び／委員長コラム

レガシー・レポーティング・フレームワークについて

レガシー・レポーティング・フレームワーク

レガシー・レポーティング・フレームワークについて

2018年2月21日にIOCがレガシー・レポーティング・フレームワークへの取組について、以下の公表をしたことを受け、東京2020大会においてもIOCの方針に基づき、実施予定。

➤ これまでのOGI調査から、大会開催によるレガシーを把握するための新たな取組(レガシー・レポーティング・フレームワーク)及び従来からの取組である持続可能性に関する報告書へ移行すること。

・OGI調査(Olympic Games Impact Study)とは、オリンピック競技大会の開催が、開催都市や地域の環境・社会文化・経済に与える有形・無形の影響に関する調査のこと。

・レガシー・レポーティング・フレームワークとは、大会が開催都市に及ぼすメリットを把握することを目的とした枠組みのこと。

【基本方針】

レガシーフレームワークは、「大会が開催都市に及ぼすメリットの把握」を目的としているため、開催都市である東京都のレガシー創出に向けた取組から項目を抽出し、東京都と連携を図りながら、レガシーフレームワークを策定する。



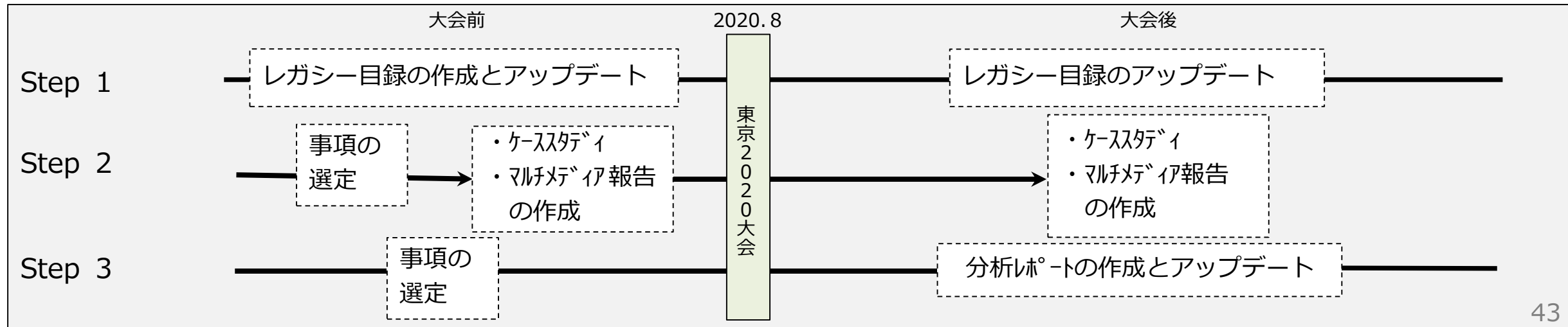
大会開催の短期的な効果、長期的な影響を把握し、大会のレガシーとして発信

レガシー・レポーティング・フレームワーク

IOCが提示する概要

- 【Step 1】 ● レガシー目録の作成 ―レガシーに関連する取組を記載―
- 【Step 2】 ● ケーススタディの実施、マルチメディアの活用
―Step 1 のうち重要と思われる取組事項を抽出し、詳しく説明―
- 【Step 3】 ● 分析レポートの作成 ―更に事項を絞り、変化の要因、大会との因果関係について詳細に分析―

スケジュール（※詳細は調整中）



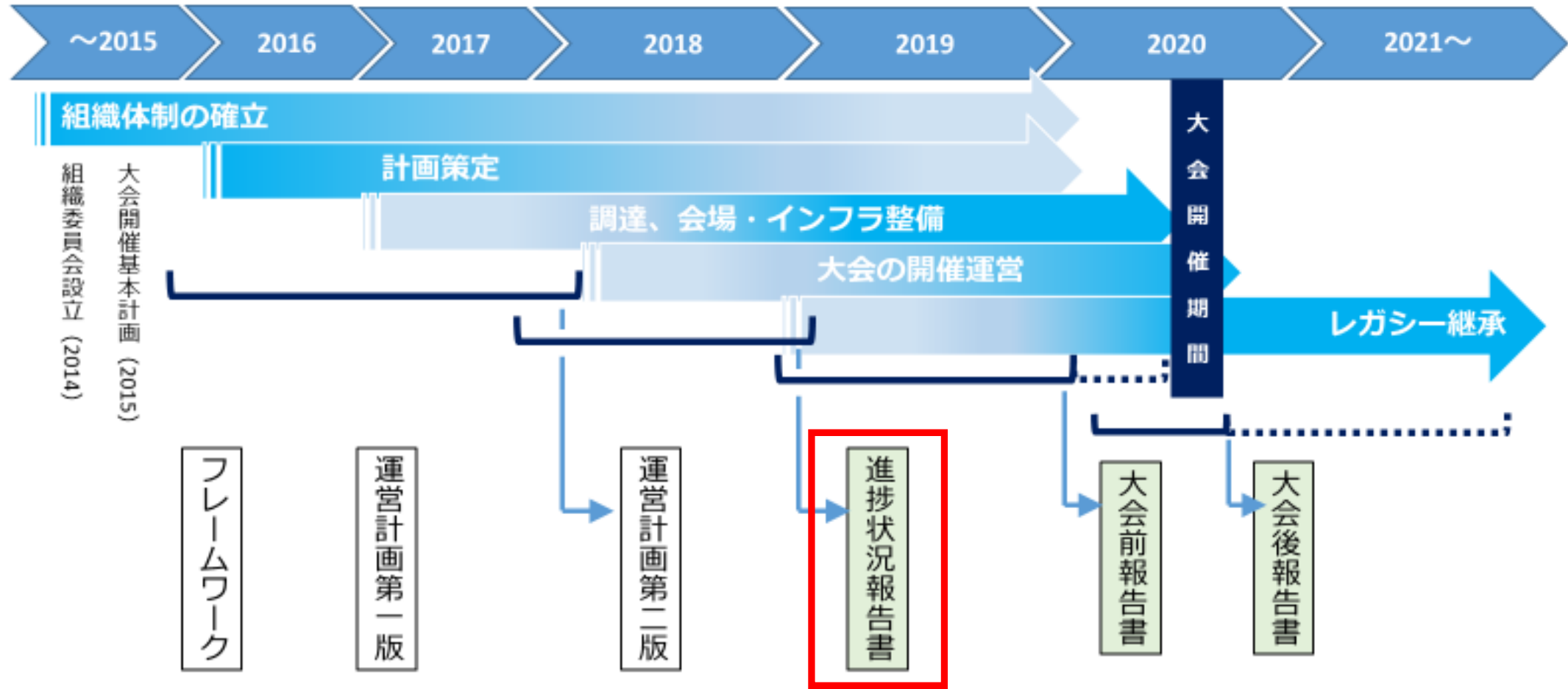
持続可能性進捗状況報告書の概要

東京2020大会の持続可能性



東京2020大会の持続可能性報告の体系

大会の準備・開催のフェーズに沿いながら、運営計画及び3つの報告書により大会の持続可能性の全体像を提示
進捗状況報告書は、2018年を中心に、運営計画の詳細化や調達及び会場・インフラ整備の進行状況を報告



持続可能性に配慮した運営計画／持続可能性報告書

持続可能性進捗状況報告書 目次

メッセージ

組織委員会 会長

組織委員会 事務総長

街づくり・持続可能性委員会 委員長

1. 基本理念及び本報告書の概要

1.1 持続可能性に配慮した大会に向けての基本理念

1.2 組織委員会及び大会関係者

1.3 本報告書について

2. 東京2020大会 持続可能性の主要テーマ

3. 組織体制

3.1 組織委員会：組織体制の変化

3.2 持続可能性マネジメントシステム

4. 主要テーマの進捗状況

4.1 気候変動

4.2 資源管理

4.3 大気・水・緑・生物多様性等

4.4 人権・労働、公正な事業慣行等

4.5 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

5. 持続可能性に配慮した調達

6. 会場整備

7. 大会開催運営の準備

8. レガシー継承

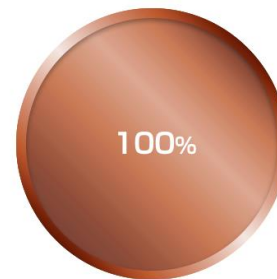
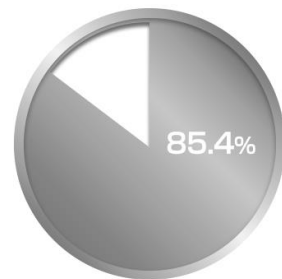
付録

みんなのメダルプロジェクト 必要な金属量を確保

- ・ 多くの方々からの協力により、回収を終了する2019年3月末までにメダルの製作に必要な金属量を確保する見込み
- ・ 全国で18,000箇所以上に回収ボックスが設置され、約9割の1,618自治体がプロジェクトに参加

金属の確保状況（2019年2月8日時点）

	確保済み金属量(A)	最終的な納入量 (目標) (B)	A / B
金	28.4kg	30.3kg	93.7%
銀	3,500kg	4,100kg	85.4%
銅	2,700kg	2,700kg	100%



金属納入式（2018年10月）



様々な団体がプロジェクトに協力



日本の木材活用リレー 全国63自治体が協力

- ・全国の自治体から無償で借り受けた木材を使用して選手村ビレッジプラザを建設し、大会後に解体された木材を各自治体で活用するプロジェクトに、日本全国の63自治体が協力



全国の63自治体が参加

ビレッジプラザの将来イメージ図(パラリンピック時)/©Tokyo2020



各自治体による伐採式の様子

東京2020大会の持続可能性 これまでの主な取組と成果

国際機関等と連携し、SDGsにも貢献

- ・ ディーセントワークの推進に関するILOとの覚書(2018年4月)
- ・ SDGsの推進協力に関する国連との基本合意書(2018年11月)
- ・ 国連グローバル・コンパクトへの参加(2018年7月)
- ・ 国連気候変動枠組条約 Sports for Climate Action Frameworkへの参加(2018年12月)



東京2020大会を通じて、世界共通の課題である国連「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献します。



ILOとの協力



国連との基本合意書に署名



ILOと共催したフォーラム



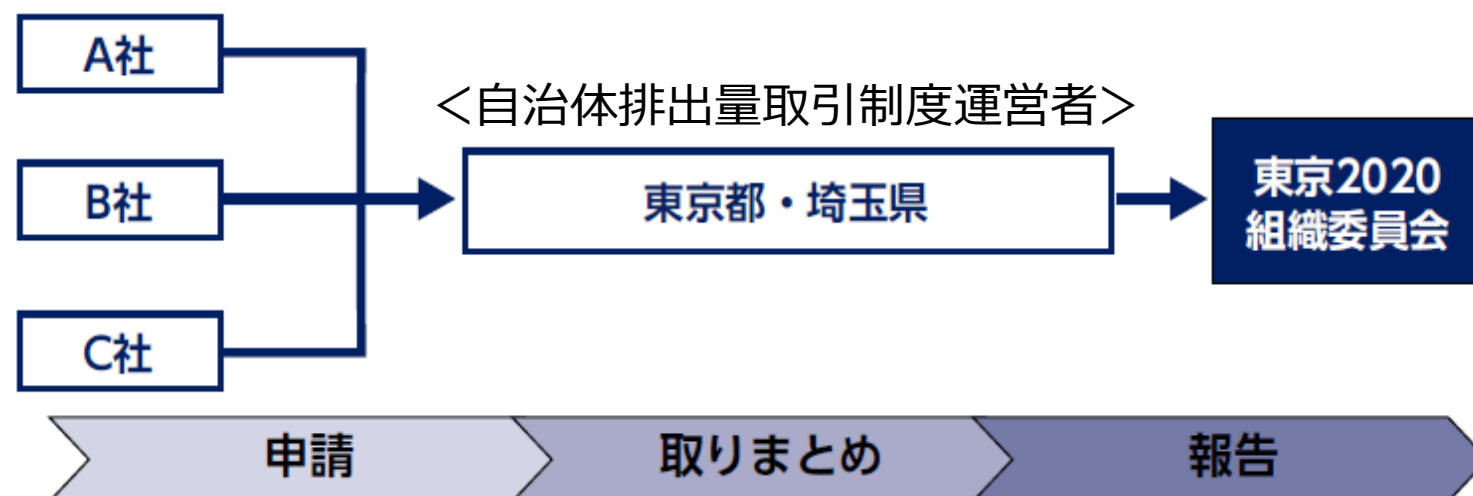
Sports for Climate Action Framework発表時の様子



多様な主体の参画によるCO₂のオフセットと削減の取組を開始

- ・大会で使用するCO₂のオフセットについて、東京都・埼玉県を通じて事業者への協力の呼びかけを開始（2018年7月）
- ・大会を契機とした、市民参加型のCO₂削減・吸収活動を促進（2018年7月）

<事業者>



自治体を通じた大会のカーボンオフセットへの参加の流れ



市民参加型のCO₂削減・吸収活動



持続可能性に配慮した調達への推進、国内における認証取得の拡大

- ・ 木材、農・畜・水産物に加え、紙・パーム油の個別調達基準を策定（2018年6月）
- ・ 「持続可能性に配慮した調達コード」の不遵守に関する通報受付窓口を開設（2018年4月）
- ・ 調達基準の策定後、国内の持続可能性に関する認証取得が増加



「持続可能性に配慮した調達コード」の実施状況

東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020）組織委員会

調達コードに係る通報受付窓口のご案内

通報受付窓口とは・・・

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会における調達コードの不遵守にお気づきの際、また不遵守によりお困りの際に誰でもご連絡いただける窓口です。
- 通報受付窓口では、皆様から調達コードの不遵守についての通報を受け付け、当事者間の対話を促進するなど、解決に向けて必要な対応を実施いたします。

● 通報受付期間： 2018年4月2日～2020年11月30日

● 受付の対象案件： 東京2020組織委員会が調達する物品・サービス及びライセンス商品に関する案件

● 受付可能な言語： 日本語もしくは英語

通報受付窓口

通報はメールまたは郵送で受け付けています。

e-mail宛先：[grievance\(at\)suscode.tokyo2020.jp](mailto:grievance(at)suscode.tokyo2020.jp)
郵送先：〒163-1011
東京都新宿区西新宿三丁目7番1号 新宿パークタワー11階
（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
総務局 持続可能性部

※メール送信の際は@を@に置き換えてご利用ください。
※郵送先は変更となる場合がありますので、郵送にあたっては以下のウェブサイトにて最新の情報をご確認ください。

+ 通報に必要な情報：
通報者（あなた）の氏名、住所、連絡先（被通報者に対して匿名にすることができます。）
被通報者（調達コード不遵守の企業、個人）及び不遵守の内容に関する情報
東京2020組織委員会が調達する物品・サービス及びライセンス商品に関する情報 など

※以下のウェブサイトにて通報フォームをご用意しております。
※通報いただいた概要や処理手続きの状況などについて、東京2020組織委員会ウェブサイトに掲載いたします。情報公開を望まない場合には、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

詳細は、東京2020組織委員会「持続可能性に配慮した調達コード」のウェブサイト
<https://tokyo2020.org/jp/games/sustainability/sus-code/> をご覧ください。

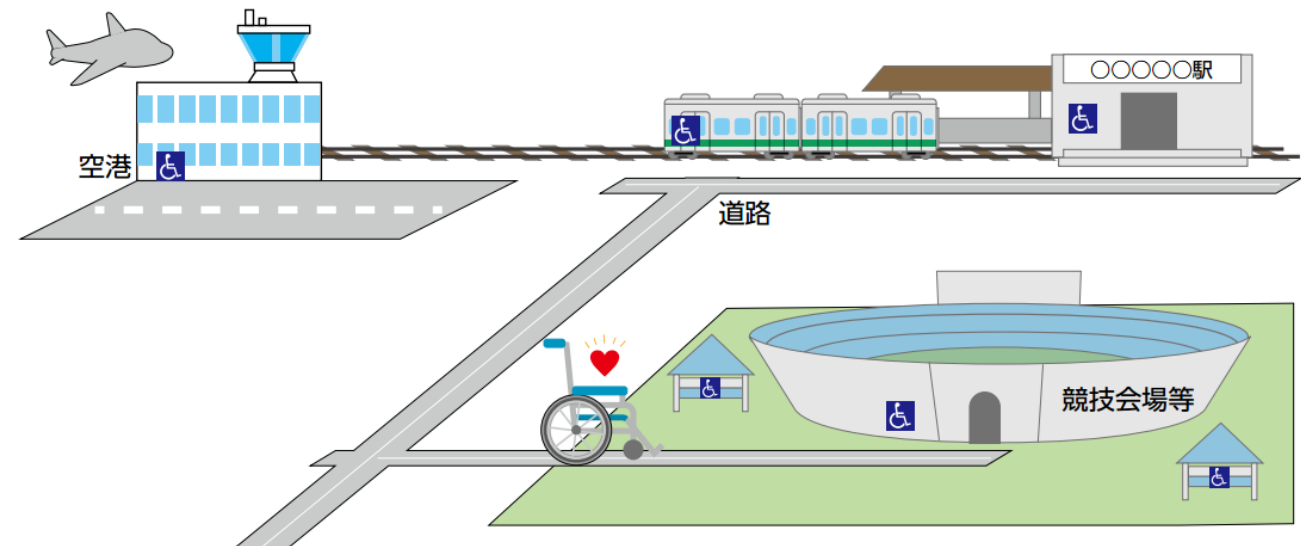
通報受付窓口を
周知する資料の配布

競技会場における高い環境性能とアクセシビリティの確保

- ・ CASBEE（建築環境総合性能評価システム、新規恒久3会場）、東京都建築物環境計画書制度（新規恒久7会場）の最高評価を達成予定
- ・ 太陽光発電、太陽熱利用、地中熱利用等の再生可能エネルギー設備やBEMSを積極的に導入
- ・ 「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」等に準じたアクセシビリティの確保



新規恒久会場への省エネ設備・再エネ設備の導入
（武蔵野の森総合スポーツプラザ）



会場までの一貫したアクセシビリティを確保

東京2020大会の持続可能性 これまでの主な取組と成果



ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）の推進

- ・ 幹部と職員による「D&I宣言」（2018年12月）をはじめ、職員がD&Iへの賛同を表明できる仕組みを構築
- ・ 職場のセクシュアル・マイノリティへの取組を評価する「PRIDE指標」において「シルバー」・「ベストプラクティス」を受賞（2018年10月）



Tokyo 2020 promotes
Diversity & Inclusion

Know Differences, Show Differences

「D&Iステッカー」による職員の意思表示



幹部と職員による「D&I宣言」への署名

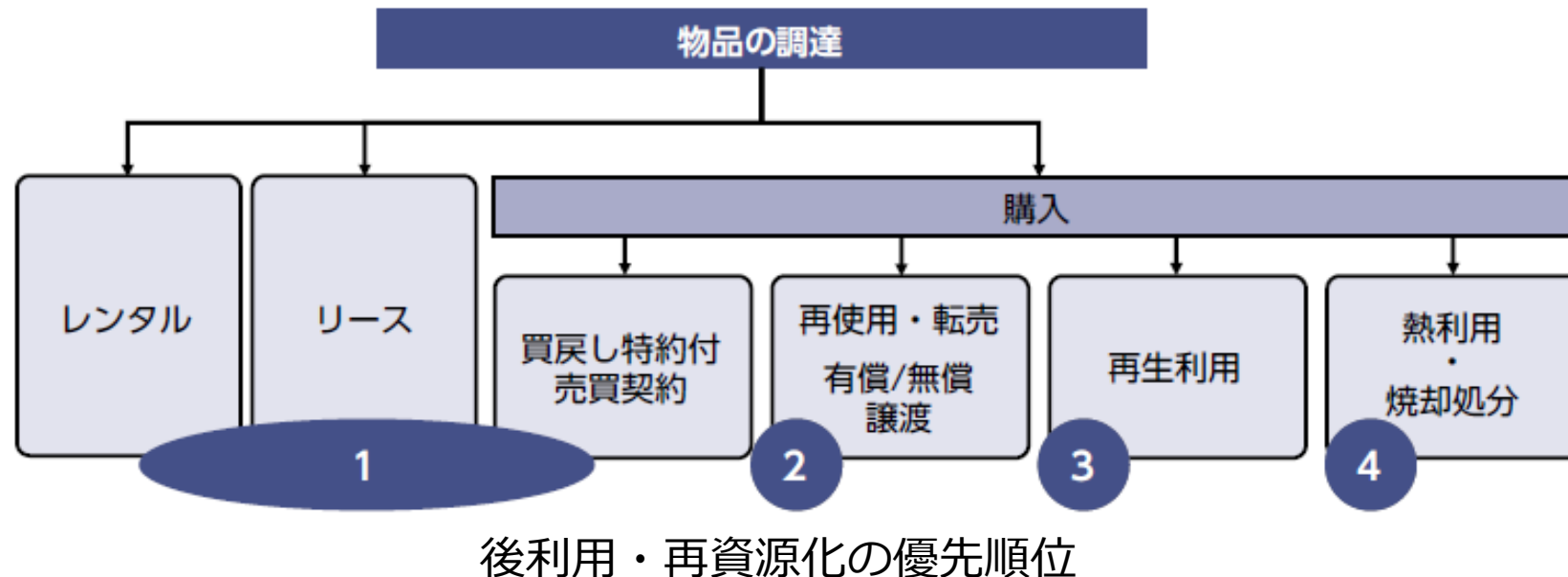


「PRIDE指標」における受賞



調達物品の後利用・再資源化に向けた取組の本格化

- ・ 持続可能性の観点も含め、適切に財産の管理と処分を進めるための「財産管理処分規程」を策定（2018年12月）
- ・ 選手村のエアコンについては、事前にリユース先の確保を進め、大会後に一部を東日本大震災の被災地域へ譲渡を検討するなど、リースの活用により資源の有効利用とコスト削減の両立に向けた取組を実施



仮設会場等における
レンタル又はリースの活用

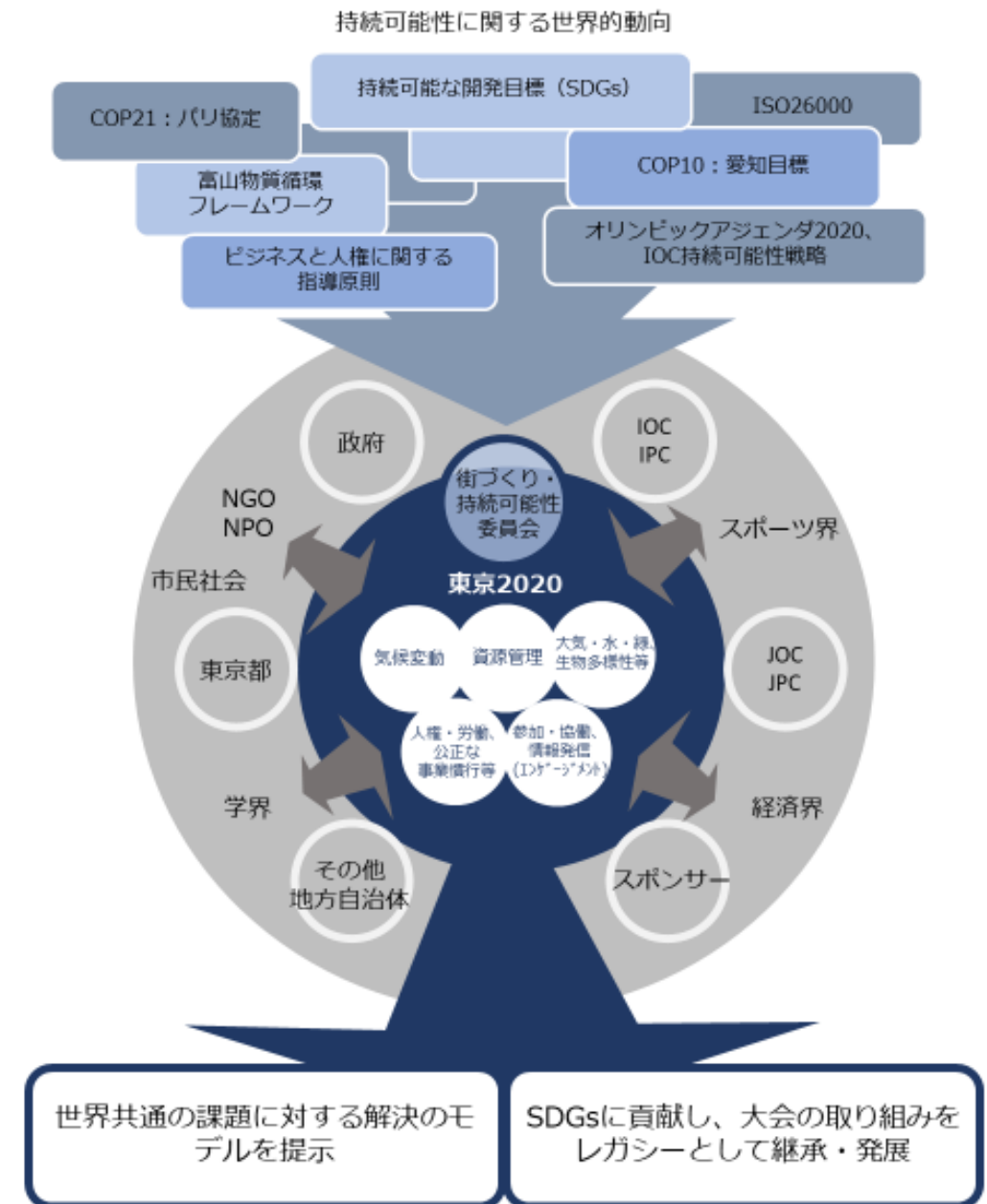
進捗状況報告書 各項目の概要

本報告書について

- ・ 持続可能性報告の国際的基準であるGRIスタンダードの中核オプションに準拠
- ・ 東京2020組織委員会の取組のほか、大会関係者の重要な取組や、関係が深い取組事例も報告
- ・ マテリアリティ（重要課題）の選定にあたっては、大会準備の早い段階から、「街づくり・持続可能性委員会」における議論を元に、5つの主要テーマを選定

持続可能性マネジメントシステム

- ・ イベントの持続可能性をサポートするための国際規格であるISO20121に則したマネジメントシステムを導入
- ・ 持続可能性に配慮した運営方針・計画を策定
- ・ 各部署に持続可能性の責任者・担当者を設置
- ・ 会議や研修を通じて持続可能性の重要性を組織内に浸透



気候変動：Towards Zero Carbon（脱炭素社会の実現に向けて）

主な取組状況

- ・ **環境負荷の少ない輸送**
 - 燃料電池自動車やプラグインハイブリッド自動車などの低公害・低燃費車両の導入を検討
 - TDM（交通需要マネジメント）の実施に向けて、「2020TDM推進プロジェクト」が発足
- ・ **資源の有効活用によるCO₂削減対策と効果**
 - オーバーレイ物品の新規購入を回避し、レンタル等を利用する場合、その物品調達によるCO₂排出量を8割程度削減
- ・ **再生可能エネルギー**
 - 「東京2020大会の再エネ電気」の考え方を整理
 - 都内の7恒久会場に新規に再エネ設備を建設（太陽光約513kW、太陽熱約462kW、地中熱約1,523MJ）
 - 福島県内の再生可能エネルギー由来水素実証施設で製造された水素の活用を検討
- ・ **カーボンオフセットと市民によるCO₂削減・吸収活動**
 - 東京都・埼玉県の協力を得たオフセットの実施
- ・ **国連気候変動枠組条約 Sports for Climate Action Frameworkへの参加**
 - スポーツに関わる気候変動対策の重要性を示し、各参加団体と協同で気候変動対策に貢献

資源管理：Zero Wasting（資源を一切ムダにしない）

主な取組状況

・ 容器包装等の削減

- 簡易な容器包装等・再生利用のし易さ及び廃棄時の環境負荷低減への配慮等を求めた調達
- リユース可能な食器の導入や、各競技会場のスタッフ向け弁当容器の仕様や廃棄物処理の3Rを検討

・ 調達物品の再使用・再生利用（目標：再使用・再生利用率99%）

- 物品等の調達の本格化を前に、「後利用・再資源化ガイドライン(方針編)」を策定
- 「財産管理処分規程」の策定や、アセット・トラッキングシステムの導入により、調達物品を統合的に管理
- 再使用に配慮した調達方法として、リースや買取保証を活用。選手村のエアコンについては、大会開催前からリユース先の確保を進め、一部は東日本大震災の被災地域の福祉施設等への譲渡を検討

・ 運営時廃棄物の再使用・再生利用（目標：再使用・再生利用率65%）

- 分かりやすいピクトグラムを表示等による分別の促進に向けた検討
- 大会で消費されたペットボトルを再びペットボトルに循環利用する水平リサイクルの検討

大気・水・緑・生物多様性等：City within Nature/Nature within the City (自然共生都市の実現)

主な取組状況

・暑さ対策

- 大会の「暑さ対策の基本的な考え方」において、観客・ワークフォース・アスリートの観点から、取組のモデルケースを策定
- 国、東京都と連携しながら、暑さ対策グッズの配布やWEB・モバイルアプリによる暑さ対策情報の発信、クールシェアの推進、競技時間の変更等の具体的な取組の検討・実施

・都市における水循環機能の向上

- 会場の水質安定化に向けて、お台場海浜公園の水質水温調査や水中スクリーン実験を実施
- 国や東京都において、皇居外苑濠の水質改善や河川・海等へ放流される汚濁負荷量の削減等を実施

・緑化、生物多様性

- 競技会場の整備において、既存樹木を極力保存するとともに、移植や在来種を用いた植樹を実施
- カヌー・スラロームセンターに隣接する葛西海浜公園のラムサール条約湿地登録

・大会における生物多様性等に配慮した資源の消費

- 国や東京都において、農林水産業におけるGAPの実施や認証取得等の拡大に向けた支援等を実施

人権・労働、公正な事業慣行等

: Celebrating Diversity – Inspiring Inclusive Games For Everyone
(多様性の祝祭 ～ 誰もが主役の開かれた大会)

主な取組状況

・差別の排除とダイバーシティ & インクルージョン (D&I)

- D&Iの観点を重視した大会の準備・運営を行うため、「D&I戦略」を策定
- 職員の具体的なアクションをまとめた「D&Iハンドブック」の作成、新規着任者研修や管理職研修の実施
- 幹部と職員による「D&I宣言」の実施、職員一人ひとりがD&I賛同の意思を表明できる「D&Iステッカー」の作成

・アクセシビリティの確保

- 国や東京都、公共交通機関等と連携し、空港や駅からの一貫したアクセシビリティを確保

・公正な事業慣行等の配慮方策

- コンプライアンス研修、調達コードの普及啓発を通じたサプライチェーンへの働きかけ

・人権相談窓口

- 「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、日常業務における職員向け窓口を設置するとともに、大会時の競技会場における人権・労働等の問題を把握する体制や、ガイドラインの作成等を検討

参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

: United in Partnership & Equality – Inspiring Inclusive Games For Everyone
(パートナーシップによる大会づくり～ 誰もが主役の開かれた大会)

主な取組状況

- ・ **様々な主体との連携・協働による大会準備・運営の推進**
 - ILOと覚書を締結し、フォーラムの開催などの協力活動を実施
 - 「国連グローバル・コンパクト」への参加、国連とSDGsの推進協力に関する基本合意書に署名
- ・ **人材育成を通じた幅広い参加の創出**
 - 東京都では「オリンピック・パラリンピック教育」において環境教育や障がい者理解を推進
- ・ **国民参加型プロジェクト等の実施を通じた幅広い参加の創出**
 - 「みんなのメダルプロジェクト」では、多くの関係者の協力により、必要な金属量を確保する見込み
 - 東京2020参画プログラムでは、持続可能性を含む8つのテーマの下、9万件以上のアクションを認証
 - 東京2020教育プログラムでは、パラリンピックを題材とした共生社会の学びを含む、オリンピック・パラリンピック教育のための教材を作成・配布

持続可能性に配慮した調達

主な取組状況

・調達コードの実施状況

- 調達コードに関する事業者の理解・取組を促進するため、調達コードの解説やQ&Aを作成
- 組織委員会の調達の仕様書及び契約書に調達コードの遵守を記載
- チェックリストの提出やヒアリング等により、サプライヤーやライセンシーの取組状況を把握
- コンクリート型枠合板の調達状況を半年ごとに公表。型枠合板について、東京都と共同で現地調査を実施
- 通報受付窓口の運用を開始するとともに、多言語の窓口周知用の資料を作成

・木材の調達基準の改定

- ①森林減少に由来する木材の使用抑制、②追加的なリスク低減措置の推奨、を盛り込んだ改定を実施

・東京都や政府機関等への働きかけ

- 東京都及びJSCは、大会関連の調達において、通報受付窓口の設置も含めて調達コードを尊重

・調達コードと連動した動き

- 木材及び農・畜・水産物の調達基準策定の前後で、国内において持続可能性に関する認証取得が増加

主な取組状況

・恒久会場の整備

- 建設発生土の有効利用率99%以上、建設廃棄物の再資源化・縮減率99%以上を達成予定
- 3会場においてCASBEE（建築環境総合性能評価システム）の最高ランクのSを達成予定
- 7会場において東京都建築物環境計画書制度の最高評価の段階3を達成予定

・仮設会場等・オーバーレイの整備

- テント、プレハブ等については、レンタル・リースを前提とするなど、可能な限り再使用・再生利用

・選手村の整備

- CASBEE－街区のSランク認証や、環境認証制度LEEDの街づくり部門「ND」のGOLD認証の取得
- ビレッジプラザの整備に関し、全国から借用した国産木材を用いて建築し、大会後には各地で活用いただく「日本の木材活用リレー」に63自治体が参加

・アクセシビリティの確保

- 「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」等に準じ、来場者のアクセシビリティを確保

今後の予定

- ・ 2019年3月26日 東京2020組織委員会 理事会
持続可能性進捗状況報告書 公表
- ・ 2020年春 持続可能性大会前報告書 公表
- ・ 2020年12月 持続可能性大会後報告書 公表

大会開催に向けて

- ・ 2019年は、計画段階から、各会場を中心とした大会の運営段階へ移行
- ・ 今後も持続可能性の取組に関する進捗状況や成果、課題などを次回以降の報告書により報告
- ・ 持続可能性の取組を、大会にとどまらず、その先の日本・世界に繋げていく

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

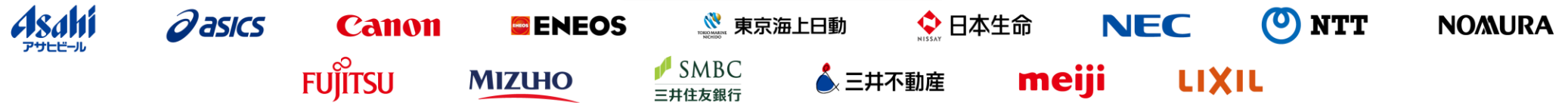
みんなの輝き、つなげていこう。
Unity in Diversity



The Worldwide Olympic Partners



Tokyo 2020 Olympic Gold Partners



The Worldwide Paralympic Partners



Tokyo 2020 Paralympic Gold Partners

